

1 情勢報告

須崎市浦ノ内地区での鳥獣被害の聞き取り



けもの道

8月29日と30日、須崎市浦ノ内地区の鳥獣被害の実態を知るために聞き取りを行いました。対象は、立目出荷組合の組合長と、丸浦出荷組合の組合長の2名で、どちらも地区での中心的な果樹生産者です。

両者からは、イノシシの被害がだんだんと増えてきていることと、個人ではイノシシを防ぎきれない浦ノ内地区の鳥獣被害の実態が共通して聞かれました。

今後、JAに配属されている鳥獣害対策専門委員や各関係機関と連携しながら、鳥獣害対策に取り組んでいきます。

JA土佐くろしお管内における土着天敵リレーの取組み

シシトウハウスにて
タバコカスミカメ観察

JA土佐くろしお管内では様々な品目でIPM技術の導入が進んでおり、中でも「天敵を利用した害虫防除技術」は効果の高さ、労力軽減の面から普及が進んでいます。さらに天敵では新たな取組みとして、土着天敵「タバコカスミカメ」の利用が検討されています。タバコカスミカメは広食性の天敵で、現在の使用されている市販天敵を補完する働きがあります。

23園芸年度にくろしお管内の促成シシトウハウスでタバコカスミカメが自然発生し、害虫を抑えるという事例が見られました。このことから、春にこのほ場のタバコカスミカメを採取し、雨よけシシトウに放飼し夏の間増殖させ、秋に再び促成シシトウへという作型間のリレーを試験的に行いました。結果は、リレー後の定着も良好でタバコカスミカメの防除効果も高かったことから、24園芸年度には10戸をこえる雨よけシシトウ・ピーマン栽培農家でタバコカスミカメが導入されました。

25園芸年度には促成シシトウ・ピーマンでさらに導入農家が増える見込みです。またインゲンなどの他品目でも導入を検討しています。

利用の広がるタバコカスミカメですが、捕獲できるほ場が限られていることや、捕獲作業が難しいことなど問題も残っています。

JA営農課と振興センターでは、今後も導入支援として、リレー体制の整備や簡易な導入方法の検討を行っていきます。

バンカー植物の調査を
行う普及指導員

鷹取キムチがサニーフェスタに出店しました。



試食販売の様子

9月8日～9日に高知市中央公園で開催されたサニーフェスタに榑原町の鷹取キムチの里づくり実行委員会が出店しました。榑原地区担当の地域支援企画員と振興センターはこれに参加し、『鷹取キムチ』の試食販売を応援しました。

雷が鳴り響く大雨と一転強い日差しが射し込む猫の目の天気の間でしたが、乾燥タケノコを材料とした試作品の鷹取キムチを味わってもらい、多くのお客さんから「おいしい」との声を頂きました。

振興センターは今後も継続して新商品の開発等を支援します。

1 情勢報告

津野町農産物直販所の秋まき野菜勉強会が開催されました。



8月24日に津野町の農産物直販所の出荷者を対象に秋まき野菜勉強会を開催し、農家36戸が出席しました。

津野町は直販所の拡大を推進してきましたが、平成24年度は特に高知市内に「満天の星」の新規開業、ふるさとセンター十津店の規模拡大などにより、今までにまして供給量の拡大と高品質生産が求められています。

消費者からの注目度も高まる一方で農産物の安全安心の確保がたいへん重要な課題になっています。

農業振興センターからは、農薬の適正使用とリスク管理についての説明とともに、栽培規模が小さく多品目を作付ける直販所出荷で特に留意すべき点を指導しました。

振興センターは今後も、直販所出荷農家に対して安心・安全な農産物生産を推進していきます。

津野町直販所ネットワークで「直販所出荷農産物のトレサビリティ」への仕組みづくりを進めています。

9月12日に津野町直販所連絡会で「直販所出荷農産物のトレサビリティ」の仕組み作りについての勉強会を開催しました。

市町村、直販所運営者、関係機関9名が出席し、「農薬の適正使用とトレサビリティ」、「県内外の直販所でのリスク管理の仕組み」、「国内の先進事例による農薬使用履歴と管理体制」について勉強し、津野町直販所ネットワークでは農薬使用履歴の全員提出にむけて準備を進めていくことになりました。

農業振興センターは、この仕組み作りを支援し、直販所での安心・安全な農産物生産・出荷を推進していきます。

千年杉営農組合（梶原町）が米のブランド化について勉強会を始めました。



9月4日、梶原町田野々において、千年杉営農組合が米のブランド化に向けて勉強会を開催しました。

勉強会では、県内事例の取り組みを説明した後に農協、梶原町役場を交え、意見交換を行いました。

積極的な意見が出された中で、代表的な声としましては、「今までは生産量を重視してきた。これからは、更なる品質の向上が必要。」、「特徴のある栽培方法を検討する。」、「千年杉で取り組むにあたって、何をPRしていくか、環境か？」等があがり、できるところから取り組んでいくことになりました。

農業振興センターは、この仕組み作りを支援し、先進地視察や玄米のタンパク質含有率調査、そしてJA津野山園芸部等の推進しているGAPに準ずる取り組みを検討していきたいと考えています。

1 情勢報告

JA土佐くろしおクジャクアスター目慣らし会



JA 土佐くろしおクジャクアスター研究会では、商品の品質の安定化を目指して、毎月目慣らし会を開催しています。

9月6日と9月20日に行われた目慣らし会にはそれぞれ10戸程の生産者が出席し、出荷時の花の咲き具合や、全体のボリュームについて実際の出荷物を前に意見を出しあいました。

クジャクアスター研究会では6月から8月の間、抽台不良が問題になっており、農業振興センターからは、原因と思われる生育前半や、定植時の水管理について情報提供を行い、適切な水管理を行うよう呼びかけました。

農業振興センターでは今後も JA との定期的な個別巡回や目慣らし会を通して技術的な支援を行っていきます。